地域づくりステップアップ研修会

これからの地域づくりにおいて大切なこと

地域づくりの本質を見つめ直す

1月31日(金)に地域づくりステップアップ研修会を開催しました。地域づくりの第一線で活躍している皆さんの更なるステップアップを目的として開催しています。今回は、「地域づくり」という切り口から様々なプロジェクトに携わる九州大学院人間環境学研究院教育部門講師の田北雅裕氏を講師にお迎えし、「これからの地域づくりにおいて大切なこと」をテーマに、ご講演いただきました。

地域の課題を解決するための方法として「88プロジェクト」が掲げられた上毛町コミュニティ計画が策定され、6年が経過しています。この間「地域を誇りに思い、地域でできることは地域で解決する」という志をもった37の地域づくり活動団体、延べ600人を超える皆さんが、地道な努力を積み重ね、活動を継続し、コミュニティ計画の推進に尽力されています。

今回の研修により、今一度地域づくりの本質を見つめ直し、今後の地域づくり活動の継続発展のポイントを学びました。

地域づくりとは、何か

地域づくりとは、地域社会というひろがりの中で、たまたま居合わせた人たちと共に日々の暮らしの課題を解決することで、次の世代に希望をつないでいく実践です。つまり、地域づくりとは、専門家が取り組むようなたいそうな営みではなく、日々の暮らしの中で、皆さんが感じた些細な課題が出発点となります。当事者感覚を持ち、その課題を手放さなかったとき、地域づくりが始まるのです。

地域づくりの実践から

～生じやすい課題～

地域づくりを実践するときに生じやすい課題があります。例えば、①「多様な価値観の人たちと関わって、ゼロから始めることが少なくないので想定外なことが多いこと」。②「地域づくりは仕事と暮らしが一体になっているので役割や責任の所在が見えにくくなってしまうこと」。③「活動予算が少なく、手弁当が多いので、時間がかけられないこと」等々があり、活動が継続しにくいことがあります。

想定外なことが多いことから、失敗は多くなるのですが、失敗を事前に止めようとする力は全体の行動を時に抑制してしまい、個人の能力が十分に発揮できない状況になってしまいます。このため、それぞれの挑戦や失敗などはある程度許容しながら、信頼を損なうような失敗を避けることに気を付ける必要があります。

財務

～どのようにお金をつくっていくのか～

地域づくり活動の実践で、問題となるのが、活動費です。ご存じかもしれませんが、行政の財政は厳しくなるので、自分たちでお金を作ることを考えて行かないと、活動も継続できません。

組織の財源の種類ですが、組織の会費、寄付金、事業収入、そして補助・助成金、委託受託金があります。これらで重要なのは、使いやすいお金かどうか(自由度)と、調達しやすさ(調達効率)です。補助・助成金は使途が決まっているなど制約が大きく、自由度は低いです。逆に組織としては事業収入、寄付金、会費は自由度が高く、これをしっかり集めていかないと活動は安定しません。地域づくり活動団体の場合、補助助成金で止まってしまいがちです。だから補助・助成金がなくなると活動が終わってしまうというケースが多くあります。

組織の運用としては、最初に賛同者を募り、出資者を確保し、組織を立ち上げます。そしてこの時からできるだけ会費・寄付収入で事業の安定化を目指すことが大事です。そして補助・助成事業で先駆的展開を行う。その後実績を重ね、行政から民間事業を受託する。そして自主事業を行い、その結果を次なる事業へつなげていく、というのが基本サイクルです。このサイクルを継続させていくことで、団体の認知度が高くなったり、信頼度が高まるので、さらに会費・寄付金は増えていきます。それぞれの財源は全て繋がっているという風に意識していただいていいと思います。

このほかインターネットを活用した資金調達(ファンドレイジング)の方法などについて、具体的な事例を交えて紹介していただきました。

想定外のことが多く、役割が見えにくく、時間もかけにくい…となるとメンバーは不安になります。しかし、活動メンバー各々の役割とスケジュールを限りなく「見える化」することで軽減できます。その活動は、「何が目的なのか」「次にどう繋がるのか」を常に意識することで改善できる課題も少なくありません。

活動を継続していくと、必然的にメンバーは入れ替わっていきます。その中で、初期メンバーと新しく入ってくるメンバーでは、愛着や組織・事業の知識量が変わってきます。このため入れ替わりや引き継ぎの際は「気持ち」を共有する時間を十分とることが大切です。

地域づくりでは、活動を引っ張っていく人(当事者)とその周囲の人に分かれていることがよくあります。目指すべきは、周囲の人に当事者意識を「伝える」のではなく「一緒に育む」感覚が大切です。自分自身が他者のために主体的に振る舞う姿が周囲の積極的な態度を引き出すことも少なくありません。

地域づくり(プロジェクト)の流れ

聞いたことがあるかもしれませんが、PDCAというものがあります。何かを計画して、実践して、評価して、反映するこのサイクルで回していく。特にプロジェクトを継続するためには、「評価」が大事です。何か新しいことをやろうやろうと新しい計画をつくっていきがちですが、プロジェクトをメンテナンスするような感覚が活動の質を高めていきます。

様々な方法がありますがそんな難しいことではなくて、KPT評価と呼ばれているものがあります。Keep(活動の結果、よかったと感じたこと)、Problem(活動の結果、課題と感じたこと)try(Keepとproblemを踏まえて、挑戦したいこと)と、これをするだけでも全然違います。とにかくやりっぱなしではなく、実践したことを評価していかなくてはならない。やったことをちゃんと磨いていく」それだけで地域の課題は解決することも多くあります。